

2018年度（一社）日本形成外科学会

小児形成外科分野指導医認定試験

（お願い）

座席の指定はありません。

前方から順に着席してください。

試験時間 16:30 ~ 17:00

1. 全前脳症 (holoprosencephaly) について誤りはどれか。
2つ選べ。

- a) 偽性正中唇裂を認める
- b) 中間唇、中間顎、鼻中隔などの形成不全を認める
- c) DeMyer分類でⅠ、Ⅱ型は軽症で予後良好である
- d) 両眼隔離症を認める
- e) 嗅脳、嗅索の形成不全を認める

2. 唇顎口蓋裂の治療につき正しいのはどれか。

- a) 口唇裂の手術は1歳6か月ころに行われる事が多い
- b) 口蓋裂の手術目的は口蓋化構音の獲得である
- c) 上顎骨の劣成長は反対咬合の原因となる
- d) 鼻咽腔閉鎖機能不全では閉鼻声を生じる
- e) 顎裂部の骨移植は構音に影響しない

3. 耳介奇形を伴いにくい疾患を1つ選べ。

- a) Goldenhar 症候群
- b) Treacher Collins 症候群
- c) Robinシークエンス
- d) Hemifacial microsomia
- e) Antley-Bixler 症候群

4. トリーチャコリンズ症候群に伴う症状を2つ選べ。

- a) 下眼瞼の部分欠損
- b) 四肢の合指（趾）症
- c) 先天性顔面神経麻痺
- d) 頭蓋顔面骨の早期癒合
- e) 両側性の頬部・下顎部の低形成

5. 多指症について誤りはどれか。

- a) 本邦では母指に多い
- b) Wasselの分類は骨のX線学的な分岐による分類である。
- c) Wasselの分類のtype VIは中手骨型である。
- d) 手術は2歳以降に行う
- e) 基節骨型では短母指外転筋腱を尺側母指に移行する。

6. 臍ヘルニアに関して、誤っているものを二つ選べ。

- a) 臍ヘルニアは自然治癒率が高く2歳までに約90%で自然治癒するとされる。
- b) スポンジ圧迫療法などの保存療法では治癒期間の短縮が期待出来る。
- c) 保存治療は1歳位に開始するのが効果的である。
- d) 臍ヘルニアがあっても手術希望が無ければ放置して良い。
- e) 臍ヘルニアの治療法としては皮弁法や縫着法がある。

7. 先天異常について正しいものを一つ選びなさい。

- a) 生まれつきの異常は、単一遺伝子の変異によるものが最も多い
- b) Deformationとは一旦正常に形成された器官や組織が、子宮内での二次的な原因によって、破壊あるいは傷害されたものをいう。
- c) 抗けいれん薬の中には、胎児に口蓋裂をおこすものがある。
- d) ターナー症候群はX染色体のトリソミーである
- e) 妊娠中に胸部レントゲン撮影を受けると、胎児に染色体異常が増える

8. 生後1か月の時点ではあまり発症していない疾患を一つ
選べ

- a) 乳児血管腫
- b) ウンナ母斑
- c) 脂腺母斑
- d) ベッカー母斑
- e) 表皮母斑

9. 小児のケロイド治療について誤りはどれか。

- a) 圧迫療法
- b) トラニラストの内服
- c) シリコーンシートの貼付
- d) 副腎皮質ホルモン含有テープの貼付
- e) 成人と同線量の電子線単独照射療法

10. 小児の熱傷について正しいのはどれか。

- a) 初期の冷却を成人に比べ長時間行うとよい。
- b) II度+III度熱傷の範囲の合計が30%体表面積以下であれば、熱傷ショックに陥る可能性は少ない。
- c) 感染の併発による熱傷深度の進行は成人よりも多い。
- d) 経口摂取は利尿期以降とする。
- e) 気道熱傷では経口挿管より気管切開を優先する。